

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-52C	24-071	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol Consumption and Smoking History at the Time of Diagnosis and the Risk of Colorectal Cancer Recurrence and Mortality: Results from the ColoCare Study 大腸がん診断時の飲酒および喫煙歴と大腸がん再発および死亡リスク : ColoCare Study の結果		
<b>執筆者</b>		
Loroña NC, Himbert C, Ose J, Cohen SA, Strehli I, Ulrich CM, Cobos S, Jean-Baptiste E, Bloomer AM, Figueiredo JC, Gigic B, Hardikar S, Karchi M, Mutch M, Peoples AR, Schneider M, Shibata D, Siegel EM, Toriola AT, Wood EH, Li CI.		
<b>掲載誌</b>		
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2025 Jan 9;34(1):59-66. doi: 10.1158/1055-9965.EPI-24-0834.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
飲酒、喫煙、大腸がん、再発	39373623	
<b>要旨</b>		
<p><b>背景:</b> 飲酒と喫煙が大腸がんの転帰に及ぼす影響については未だ結論が出ていない。本研究では、大腸がん患者において、診断時の飲酒と喫煙の有無が再発と全死亡に及ぼす影響について検討した。</p> <p><b>方法:</b> 大腸がんの再発および大腸がん特異的死亡率に関する縦断的多施設共同研究である ColoCare Study の参加者のうち、ステージ I~IV の大腸がん患者 2,216 人を対象とした。Cox 比例ハザードモデルを用い、大腸がん診断時の飲酒および喫煙状況とがん再発あるいは大腸がん特異的死亡リスクとの関連を検討した。なお、分析は、年齢、性、人種、民族、病期、腫瘍部位、治療、併存疾患、肥満度などで調整を行った。</p> <p><b>結果:</b> 追跡期間 (平均 3 年間) 中、再発 235 件、大腸がん特異的死亡 308 件が観察された。現在飲酒は大腸がん再発あるいは大腸がん特異的死亡リスクと関連を認めなかった。同様に、喫煙経験についても大腸がん再発あるいは大腸がん特異的死亡リスクと関連を認めなかった。</p> <p><b>結論:</b> 本研究で対象とした縦断的コホートでは、大腸がん診断時の飲酒および喫煙状況と臨床転帰との間に関連を認めなかった。</p>		